

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690400058
法人名	医療法人 厚生会
事業所名	グループホーム 宝寿庵
所在地	鹿児島県枕崎市寿町26番地1 (電話) 0993-72-0084
自己評価作成日	平成25年6月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、利用者様第一主義をモットーに、利用者様が住み慣れた地域で、その人らしく「今」を楽しんで生活できるように、目と耳と心を最大限に活用して支援に取り組んでいます。緑豊かな地域に立地し、施設内はゆとりある空間を設け、利用者様のストレスの軽減にも役立っています。また、食事やお茶の時間は利用者様とテーブルを共にし、食事の様子を観察するだけでなく、会話を楽しみ、会話を通して利用者様の不安や要望を聞き入れるように努めています。

当事業所では、利用者様と同様にご家族との信頼関係の構築にも力を注いでいます。利用者様の生活の様子や「宝寿庵新聞」と題した会報を定期的にご家族に届け、利用者様の状況や事業所での情報を出来る範囲でご家族と共有出来るように努めています。また、運営推進会議に限らず、様々なイベントにご家族を招待し、希薄になりがちな利用者様とのコミュニケーションの機会も設けています。ご家族が来苑しやすい環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、医療法人グループ事業の一つである。枕崎市街地高台に位置し、周辺には、健康センターやショッピングストア・コンビニなどがあり、散歩や買い物の際には挨拶や会話を通じて、ホームと地域住民は日常的に交流している。
- ・利用者が張り合いや喜びの日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を支援している。さらに地域の人をお茶に招待したり、子どもの夏休みには、庭をラジオ体操の場として提供するなど、地域交流を積極的に進めている。
- ・協力医療機関における緊急時対応の医療のバックアップ態勢が充実している。
- ・管理者は職員を育てることに力を入れ、各種研修等への出席を奨励している。また、福利厚生も充実しており、職員は、ケア対応等の向上を目指し研鑽している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念とケアの方針はホール内に掲出し、介護への意識向上を図っている。また、介護を接遇という観点から捉え、毎月目標を掲げ、介護の質の向上に努めている。	理念は地域との関連性を重視した独自のもので、ホールに大きく掲示している。朝礼時や職員会議等で唱和し、話し合いを行い、具体的なケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に限らず、運動会、開業記念日等に地域の方々を招待し交流を取っている。また、地域の方々による定期的な慰問も行われており、夏休みはラジオ体操の会場として施設の庭を提供している。	自治会に加入し、ホームの新聞を配布したり、回覧板等で地域と情報のやり取りがあり、地域行事や清掃活動に積極的に参加している。夏休みのラジオ体操には、施設の庭で子供たちがラジオ体操をしている。保育園との交流のほか、ボランティアの受け入れなどが行われている。中学生の職場体験学習の受け入れを来年度に計画之中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議において、事業所についての周知をお願いしている。会報を地域に配布し、理解と協力の促進に努めている。また、法人が主催する勉強会や後援会でも周知に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、家族の代表者、地域の代表者、市職員、法人の関係者から意見や要望を聞き、サービス向上に取り入れている。また、利用者様の自宅付近をドライブし、ご近所の方々との交流も取っている。</p>	<p>会議は事業運営や利用者の状況報告・外部評価結果報告等を行い、意見交換をしている。利用者の家族へのアンケート調査の提案があり、早速実施している。出された意見等はサービス改善につなげ、ホーム便りで家族にも報告している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>月に1回は、利用者様の状況や待機者の現況を市福祉課と地域包括センターの担当者に報告し、適宜指導も受けている。</p>	<p>市の担当者とは、現状報告や困難事例の相談をしたり、情報をもったりアドバイスを受けている。市主催の養成講座などにも、積極的に参加して、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束ゼロを前提に介護に取り組んでいる。不穏や徘徊を繰り返す利用者様には、寄り添って見守り、利用者様の世界に共感するように努めている。夜間帯も、無理に寝かせようとせず、リビングに誘導するなどして過ごしている。</p>	<p>指針やマニュアルを基本に法人内での研修を実施し、身体拘束ゼロを実践している。昼間の玄関は施錠せずに、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。事故防止のためでも身体拘束になる場合については、適正な取り扱いを行い、家族に説明し同意書をもっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳を尊重し、利用者様に対する言動を含め虐待の防止に努めている。定期の職員会議でもテーマに掲げ、虐待の防止を徹底している。言葉による暴力と虐待の防止には特に力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様の権利擁護に関しては、法人内の他の事業所で開催された研修会に参加し、また、参加できなかった職員に対しては資料を元にフィードバックを行い、認識を持つよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や管理者が担当し、利用契約書と重要事項説明書を丁寧に説明し、理解を得ている。改定時は、改定部分を抜粋して同意書を作成し、後見人の承諾を得ている。また、契約書は年度ごとに見直し、改定時は同意をいのようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	個々の介護計画の更新時には、介護計画作成担当者のご家族の希望を聞き、介護計画に反映させている。また、面会時や運営推進会議の際にご家族の意見や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。意見等については運営推進会議にて報告している。	利用者からは担当制で、日頃から何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。家族からは利用者の状況を手紙や電話で報告し、家族会や面会時の機会に意見や要望等を聞いている。出された事項については、職員で話し合い、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月例の職員会議や日々の申し送りの際に、職員間の交換を行っている。職員からの運営や業務に関する提案は、他の職員の承認を受け、積極的に取り入れられている。</p>	<p>管理者は、職員会議や申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に職員の思いや意見を聞いている。ケアに関する意見や提案が多く出され、積極的に運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>具体的な人事考課制度は無いが、個々の職員の実績を生かした適材適所の配置がなされている。各職員が連携して業務を行うように努めているため、就業時間も守られ、環境も整備されている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の育成に関しては、管理者が一任を受けており、介護職員としてスキル向上に結びつく研修には積極的な参加を薦めている。また、個々の経歴に合わせた研修も管理者が選択し、参加を薦めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的に他グループホームとの交流会を開催し、利用者様だけでなく職員も交流を持っている。また、GH連絡協議会が主催する研修会にも参加し、他事業所の職員との交流にも努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後の利用者様は、帰宅願望が強く、徘徊や不穏の要因となる。ここに住むという説明はせずに、今日はここに泊まるだけという接し方をし、不安を抱かせないように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結の際に当施設の理念とケアの方針を説明し、ご家族の理解と協力が重要であることの理解を得ている。また、ご家族の要望を介護計画に取り込み、定期的に進捗状況を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前施設の担当者のご家族から利用者様の現状とそれまでの支援の状況の聞き取り調査を行い、当施設での支援と介護の優先順位を見極め、介護計画に反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が自身で出来ることは、職員が見守りご自身でやってもらおうようにしている。また、お茶や食事は利用者様とテーブルを共にし、会話を交えながら過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を2ヶ月に1回、文書にてご家族に報告している。その際、利用者様の関わりもお願いしている。運動会や花見などイベントにはご家族も招待している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的実施しているドライブでは、利用者様の自宅周辺や市内に住む家族や兄弟を訪ねたりして、関係が途切れないようにしている。また、ご家族を通して関係のある方々の面会もお願いし、面会の環境を整えている。	行きつけの理美容院へ出かけた後、利用者の友人や知人・親戚の訪問には、居室を開放してお茶を出してくつろいでもらっている。毎週水曜日はドライブの日で自宅周辺や墓参り・兄弟・知人宅へ伺っている。また、家族の協力を得て外出を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不定期であるが、テーブルの席替えをしたり、日々のレクリエーションではチームでできる遊びを行い、利用者様同士のコミュニケーションが限定的にならないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開業以来契約が終了した利用者様は、治療を優先するための入院が殆どであるが、ご家族と相談の上法人内の医療機関を斡旋するなど支援を行なっている。入院後は、医療機関と連携を取り状況の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様全員が画一的な介護に支配されないように、介護計画の目標を基本に、各々の状況に沿った介護・支援を行なっている。本人の希望や意向を見守りや会話から汲み取り、介護・支援に反映している。	日々の関わりの中で、利用者の言動や表情などから、思いや意向の把握に努めている。また、困難な場合は、家族や関係者からの情報を聞き、職員間で記録帳類も活用し話し合い、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族や前施設の担当者から生活歴や生活環境は確認している。入所後も断片的ではあるが、ご家族からそれまでの暮らし方を聞き取り、経歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には利用者様の思うままに生活して頂いている。自立支援が当施設の役割の一つと捉え、残存能力を導き出す支援も心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画担当者は、ご家族の要望を聞き取り、利用者様の現状を的確に把握した上で介護計画を作成している。作成後は、複数の職員とモニタリングを行い、職員からの意見も反映させている。承認を得た上でご家族に説明し、同意を得ている。	本人や家族・その他必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している。モニタリングやカンファレンスは1ヶ月毎に実施し、状態の変化があればそのつど見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当施設では、業務日誌、ケア記録、看護記録等を活用し、日々の担当者が記録している。日々の申し送りや月例の職員会議の議題にも取り上げ、全職員に利用者様の情報が共有されている。管理者がそれぞれをサマリーし介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設を介護の場と捉えず、利用者様の生活の場と捉え、普通に生活していればやるであろうと考えられることを支援に組み込んでいる。病院の受診、買い物、歌謡番組の鑑賞など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市福祉課や地域包括センターとの連携は取れている。また、地域の方々によるボランティアの慰問や地域の幼稚園との交流もあり、また地域住民や子供たちの訪問も行われている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にご家族の了承を得て法人内の医療機関に転院された利用者様の受診支援は行っており、医療機関との連携もスムーズである。それ以外の場合は、受診に同行されるご家族に主治医からの情報を確認している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が、継続できるように支援している。さらに、定期受診の支援や看護師による健康管理を行っている。医療機関との連携を取りながら適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人内の医療機関での定期受診には、看護職員が同行し、主治医の診断に同席している。それ以外の利用者様の場合でも受診後に診断内容をご家族から確認し、起こりうる病状の変化を認識して支援に反映している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された場合には、看護職員でもある管理者が担当し、医療機関との連携を取っている。また、入院中は利用者様の状況確認を含め、出来る限り毎日職員が医療機関に赴き、情報交換を行なっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り介護に関しては、一部のご家族からの希望はあるが、現状では看取り介護の実施は継続課題として検討中である。また、重度化した利用者様に対しては、協力医療機関やバックアップ施設と連携し、ご家族と相談の上対応している。</p>	<p>重度化や終末期に際しては、契約時に指針を説明し同意を得ている。状況に応じて主治医に相談し、繰り返し話し合っ意向を確認している。看取り介護の実施は検討中であり、医療行為が発生した場合は、医療機関や家族と相談しながら対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>重篤の可能性のある急変時は、消防に救急車を要請し、同時に介護職員に報告を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防及び避難訓練を実施している。うち1回は消防職員の立ち会いのもと実施し、消火訓練も行なっている。運営推進会議では、防災に対する施設での取り組みを報告し、地域への協力もお願いしている。	年2回、消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。スプリンクラーや火災通報電話機、オール電化等の安全対策の設備がされている。法人との連絡網、近隣在住の事業所職員や地域住民との協力体制もできている。災害時の水や食料の備蓄もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の法令遵守に関する研修会に多数の職員が参加し、その重要性を認識している。利用者様の尊厳を尊重し、優しい対応を心がけている。	法人内で全体研修会や勉強会を実施し、マニュアルを基本に、職員の共有認識を図っている。日々の関わりの中で、トイレへのさりげない声かけやケアを行う時のプライバシー保護に注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の利用者様との会話や行動観察から利用者様の思いや希望を察知し、会話の話題し出して、利用者様の意思確認をしている。自らの希望を優先し、支援に反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身の状況により、利用者様の希望に沿えない場合もあるが、基本的には利用者様に寄り添うことを心がけ、利用者様の思うままの生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時の整容で身だしなみを整え、衣服についても同じような服が続かないようにしている。中には、ご自身で衣類を選ぶこともあり、希望を優先している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食の好みを聞き出し、メニューに反映している。デザートや菓子類関連しても同様である。利用者様の誕生日には、好みの食材を使い食事を提供している。	嗜好調査を行い、利用者の好みに配慮した献立を工夫したり、利用者の可能な範囲で、職員と一緒に餃子を作ったり、準備や後片づけを行っている。誕生会や行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。外食も定期的に計画し、家族と共に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや栄養過多にならないように心がけている。また、各々の利用者様に合わせた食事量にて提供している。水分摂取については、最も注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがいから、毎食後の口腔ケア、義歯洗浄を徹底して実施している。うがいにはお茶を使用し、口腔内の殺菌、ウイルス感染の予防にも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自主的に出来る利用者様にはご本人に任せているが、それ以外の利用者様には、排泄記録をもとにトイレ誘導し、トイレでの排泄の習慣を支援している。介護用オムツの使用を無理なく0にすることを目標としている。	個々人の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を基に自尊心に配慮しながら、さりげなくトイレへの誘導を行っている。おむつを減らす取り組みと排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量には注意している。運動不足にならないように体を動かすレクリエーションやホール内の歩行訓練を行なっている。また、乳製品の摂取や繊維質の食材の使用も心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者様を2つのグループに分け、週3回の入浴支援を行なっている。入浴の順番は曜日ごとで変えている。入浴中はできるだけ自力で出来るように支援している。	週3回個々人の体調や希望に添って入浴ができるように支援している。入浴をいやがる利用者には、職員間で連携し、工夫して状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、食事や体操、お茶の時間以外は利用者様は自由に過ごしている。就寝・起床時間はご本人に任せ、就寝中の声掛けは異常がない限り控え、見守りを徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は主治医から処方された薬のみを用い、看護職員により管理されている。薬には一包毎に氏名と与薬時間が記載され、事故防止に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の残存能力に応じた作業をお願いし、得意とする作業に関しては、ご自分が担当する作業だと認識している利用者様もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ドライブ時には、利用者様に行きたい場所を聞き、その場所を走るようにしている。また、花見や遠足の際にはご家族の参加もお願いし、共に過ごす時間を提供している。お彼岸やお盆には墓参りやお寺参りの支援も行なっている。</p>	<p>日常的には、散歩や買い物・ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。年間計画で花見や遠足などに家族や地域のボランティアも一緒に出かけることもある。遠方への外出には家族の協力を得て支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入所時にご家族と相談の上、現金を持ち込まれている利用者様はいない。入居中に現金の持ち込みを希望された利用者様に対しては、ご家族に相談し、その判断に委ねている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>必要に応じて、電話をかける支援は行なっている。しかし、ご家族やご友人を含め、直接面会に来られる方が殆どである。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設内は天井も高く、ホールとリビングの仕切りもなく、圧迫感を感じない空間となっている。午前中は、開口部の広いガラスサッシから陽光が差し込んでいる。施設内は、白と茶色を基調しており、落ち着いた雰囲気である。</p>	<p>共用の空間は、換気や採光が配慮され、高い天窓から柔らかい光が入り込んでいる。壁には手作りの季節の飾り物や写真が貼られ、静かに音楽が流れている。あちこちにソファがあり、好きな場所で過ごしている。行燈風の照明を楽しみながら居心地よく暮らせるように配慮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用部では、リビング、サブリビング、テーブル、テラスや庭など利用者様が希望される場所で寛げるように配慮している。居室は全てホールに面しており、自由に行き来出来るようになっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>寝具類以外は、利用者様が使い慣れた家具や馴染みの品物を持ち込んで頂いている。また、居室内の清掃は毎朝実施している。また、職員が訪室した際には、居室内の状態を確認し、整理整頓の支援を行なっている。</p>	<p>居室は広く、全ての居室がホールに面して、モーターで作動するベッドが備え付けてある。本人の好みの品物や写真や飾り物等、家族の思いの品が持ち込まれ、居心地のよさが配慮されている。また、必要な個所には工夫した手すりを取り付けてある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全性に関しては、ハード面以外にも、空間にゆとりを持たせ、歩行等の障害になる物は壁側に置くか排除するなどの配慮はなされている。各々の残存能力に沿った作業や職員との協働を行なっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない